

マーケットの動き（2023年8月28日～9月1日）

先週の為替市場は前週末比、米ドルは対円で下落（円高）しました。
29日発表の米国雇用関連指標は市場予想を下回り、米国労働市場の過熱感が和らいだとの見方から米国金利が低下し、米ドルは145円台半ばまで下落しました。1日発表の米国雇用統計を受け、FRB（米国連邦準備制度理事会）高官が米国労働市場は依然として強いとの認識を示したことなどから、米国金利が低下幅を縮めると米ドルも146円台まで買い戻されて週を終えました。
ユーロは前週末比、対円でほぼ横ばいとなった一方、対米ドルで上昇しました。

投資環境見通し（2023年8月）

円に対して米ドル、ユーロともに金融政策の方向性は依然として上昇要因

米ドル：金融政策の方向性の違いは依然としてドルの円に対する上昇要因とみられますが、米国においてインフレが鈍化し長期金利が低下する場面では金利差が縮小し、ドル安につながるとみられます。

ユーロ：金融政策の方向性の違いは依然としてユーロの円に対する上昇要因とみられますが、ユーロ圏において景気減速懸念は長期金利の低下要因とみられ、金利差が縮小する場面ではユーロ安につながるとみられます。

	9月1日	変動幅（円）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	146.03	▲0.55	2.76	9.91	6.01
ユーロ/円	157.82	▲0.05	0.51	12.56	18.70

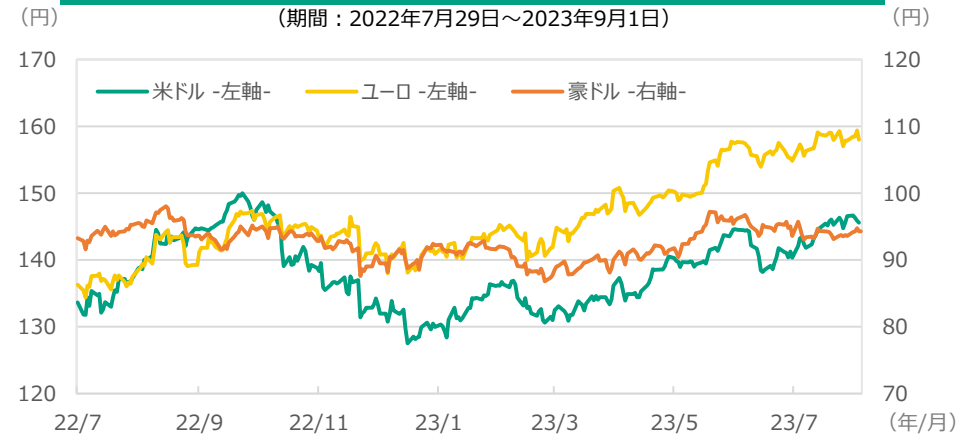
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

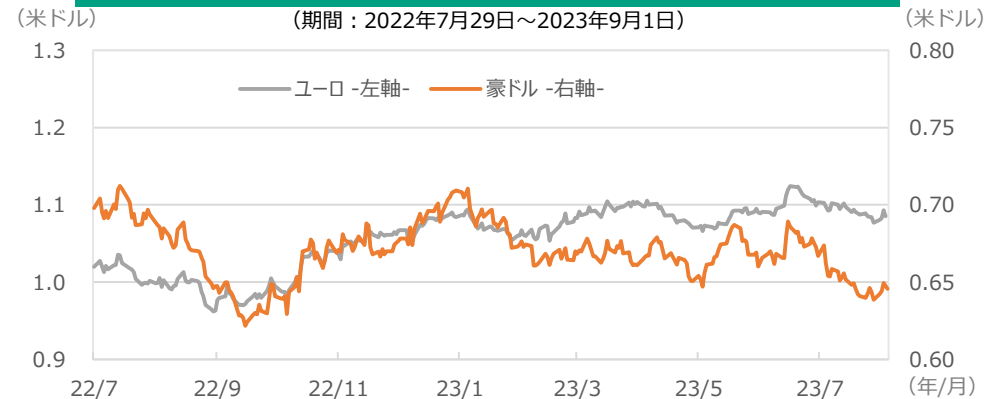
https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202308_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

為替レートの推移（対日本円）



為替レートの推移（対米ドル）



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成